

# MACROCOSM



## CONTENTS

---

- 2 財団法人青少年国際交流推進センター会長挨拶
- 3 財団法人青少年国際交流推進センター平成22年度事業計画書
- 4 日本青年国際交流機構(IYEO)会長挨拶
- 4 平成22年度日本青年国際交流機構(IYEO)活動計画
- 6 タイ王国スタディツアー 2010
- 8 スリランカ教育支援プロジェクト-One More Child Goes To School-
- 9 第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(NPOマネジメントフォーラム)
- 10 第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」(地方プログラム)
- 12 第16回青少年国際交流全国フォーラム 広島大会

# 財団法人 青少年国際交流推進センター会長就任 御挨拶



財団法人 青少年国際交流推進センター  
会長 有馬 朗人

この度、財団法人青少年国際交流推進センターの評議員会・理事会において会長に選任され4月1日に就任いたしました。

当財団は、昭和34年に今上陛下の御成婚を記念して始められた青年海外派遣・外国青年招へい事業を平成6年の皇太子殿下御成婚を記念し発展的に継承した「国際青年育成交流」事業を始めとする内閣府所管の青年国際交流事業への協力・実施とこれら事業への世界50か国、3万3千人に及ぶ既参加者の事後活動支援、ネットワーク形成等を行うほか、国際交流事業に関する情報提供・啓発、国際交流指導者の養成、海外へのボランティア派遣等の自主事業を行っています。

急進展するグローバル化の中で、広い国際的視野と内外にわたるネットワークを持つ青年リーダーの育成は益々重要となっています。

若い人たちがややもすると内向きになりがちと言われる昨今、青少年国際交流事業は、広く世界に目を向け、グローバルな視点を持って我が国の将来を考え、地球の持続的発展と世界の平和を担っていく若いリーダーの育成に大きな意義を持つものであり、その推進のため当センターが一層の貢献を果たしていけるよう努力して参る所存です。関係各位の御支援御協力をお願いして就任の御挨拶といたします。

若い人たちがややもすると内向きになりがちと言われる昨今、青少年国際交流事業は、広く世界に目を向け、グローバルな視点を持って我が国の将来を考え、地球の持続的発展と世界の平和を担っていく若いリーダーの育成に大きな意義を持つものであり、その推進のため当センターが一層の貢献を果たしていけるよう努力して参る所存です。関係各位の御支援御協力をお願いして就任の御挨拶といたします。

## 有馬朗人先生を新会長にお迎えして



財団法人 青少年国際交流推進センター  
理事長 上村 知昭

当センターは、平成22年4月1日に、石川忠雄前会長御逝去以来しばらく空席であった会長に有馬朗人先生をお迎えしました。

有馬先生は、今さら申し上げるまでもないことですが、東京大学総長、文部大臣兼科学技術庁長官などを歴任された卓越した物理学者でいらっしゃいます。そして、国際交流の分野でも、国際研修交流協会（経産省所管の財団法人）で理事長として、人類喫緊の課題である地球環境、エネルギー等のテーマを中心に、世界各国からそれぞれの分野で重要な立場にある学者、経済人

等を招へいし、セミナー・講演会等を開催され、御自身も積極的に講演される等、地球規模の問題にグローバルな連携を図りつつ取り組んでおられます。青少年国際交流についても広く高い視点からその意義を述べておられます。私ども職員も改めてこのことに思いをいたし、当センターの使命達成のため、新会長の御指導の下、更に懸命に努力して参りたいと存じますので、皆様の変わらぬ御指導、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

# (財)青少年国際交流推進センター平成22年度事業計画書

## 1 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

### (1) 青少年国際交流スタディツアー

地域での国際交流活動に関心と意欲のある青少年を内閣府の青年国際交流事業既参加青年の組織のある国に派遣し、ボランティア活動への取組や訪問国青年の案内による視察、調査等を行う。年1回8日間、参加人数20人程度

### (2) 国際理解教育支援事業

内閣府の実施する青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、国際理解教育に資するため、日本の学校に派遣する。年6回 派遣人数 各3人程度

### (3) 内閣府を始めとする国等の実施する青年国際交流事業への実施協力

## 2 青少年国際交流に関する啓発及び研修

### (1) 青少年国際交流全国フォーラム

全国各地域で国際交流に携わる指導者及び青年を対象に、有識者の講演、青少年国際交流活動に関する事例発表・討論等を行う。年1回 埼玉県で開催、参加人数300人程度

### (2) 青少年国際交流を考える集い

全国8ブロックで開催。平成22年度は次の各県で開催する。

北海道・東北ブロック・・・岩手県

関東ブロック・・・埼玉県(全国大会同時開催)

北信越ブロック・・・石川県

東海ブロック・・・愛知県

近畿ブロック・・・兵庫県

中国ブロック・・・鳥取県

四国ブロック・・・香川県

九州ブロック・・・長崎県

### (3) 青年国際交流事業報告会

国際交流に関心のある青年を対象に、青年国際交流事業参加者による報告会を行い、国際交流事業への参加を促す。年3回 東京で開催、参加人数 各250人程度

### (4) 国際理解促進のための指導者養成セミナー

国際理解の促進を図るため、国際交流に携わる指導者の養成を行う。

年1回 東京で開催、参加人数30人程度

## 3 青少年国際交流に関する出版物の刊行等

### (1) 情報誌の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌「マクロコズム」を発行し、都道府県を中心とする関係機関及び一般に配布する。

季刊 11,500部 1回 3,000部 3回

### (2) 年報の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の実施状況など、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した年報を作成し、国際交流実施団体等に配布するとともに、政府刊行物センター等において販売する。年1回発行 1,500部

### (3) その他

青少年国際交流事業に関連する各種資料を作成し、都道府県を中心とする関係機関に配布する。

## 4 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

### (1) 青少年国際交流情報ネットワークの整備

内外の青少年国際交流関係者に関する情報を収集し、ネットワークを整備する。

### (2) 海外における国際交流活動に関する情報収集

関係各国に職員等を派遣し、国際交流に関する情報を収集する。

### (3) ホームページによる国際交流活動に関する情報提供

## 5 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

### (1) 国際交流活動の推進

全国各地域で行われる青少年の国際交流活動を推進する。

### (2) 青少年国際交流コンサルティング

青少年国際交流事業の実施を希望する団体を対象に、青少年国際交流事業の企画、実施に関する相談に応ずる。

### (3) 国際ボランティア等に関する情報提供

国際協力、国際貢献に関心のある青少年に対して、国際協力、国際貢献に関する活動団体、活動内容等を紹介する。

## 「経験を発信し、発信から貢献へ」

日本青年国際交流機構会長  
大河原 友子



日本青年国際交流機構会長に就任してから、1期、2年の月日が流れました。日本はもとより、世界中の人々と出会い、大変充実した2年間でした。今年は2期目となりますが、新たな気持ちで会長を続投させていただきます。

全国から選ばれた内閣府青年国際交流事業の参加青年たち、47都道府県で活躍する様々な年代のIYEO会員、招へい、派遣など多様な交流プログラムを通して出会う世界中の青年たちなど、私は年間を通して数多くのすてきな人々と出会うチャンスに恵まれています。年齢、国籍、職業などは違って、国際交流事業に携わっている方々にはいくつかの共通点があることに気がきました。何年何十年経っても「青年の心」を持ち続け、明るく、ポジティブで人間的に大変魅力的であるということです。

「国際交流」の場面では言葉が通じなかったり、異文化を体験する中で自分の価値観が全く通用しない状況に直面したりすることが多々あります。しかし私たちは、実体験を通して国籍、言語、習慣などが違う人たちとでも、喜怒哀楽を分かち合い、心を通わせることが可能であることを学びました。そこには、コミュニケーション、リーダーシップ、人と人の繋がりの大切さなど人間力アップのトレーニングに最適なノウハウが凝縮されていました。このような貴重な経験や感動を源に、更に一歩踏み出して社会に

貢献していくことが我々の使命です。

昨今、日本の若者はというと、残念ながら暗いニュースばかり耳にする傾向にあります。そんな世の中の風潮を吹き飛ばすかのごとく、全国で出会う会員の皆さんからは内に秘めるパワーを感じます。IYEOは各自の経験をいかして社会に発信し、更には発信から貢献へと発展する活動に取り組んでいる団体だと確信しております。

昨年度の内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業50周年の節目に私たちの活動方針を改正しました。

IYEOは、基本的には下欄にある活動方針の2や3のように「国際」という切り口から社会にメッセージを送っていますが、今年度は、基本的な分野で社会に貢献するべくさまざまな問題を抱えた青年たちを含めた日本の「青年層を活性化する基盤づくりに取り組もう」とチャレンジします。内閣府及び（財）青少年国際交流推進センター等他団体と連携の下、今後も様々な事後活動に取り組んでいきたいと考えております。皆様の御支援、御協力の程よろしくお願いいたします。

## 平成22年度 日本青年国際交流機構 (IYEO) 活動計画 ●●●●●●●●●●●●●●●●

### I. 活動方針

#### 「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」

変化の激しい現代社会においては、これらの変化に対応し幅広い視野を持って新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。このような現状を踏まえて、50年を超える内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組む。

#### 1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

現代の青年の社会活動へのニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組み、青年による社会の活性化を目指す。

#### 2. 地域社会に貢献できる人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を積極的に行い、地域と世界の距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献が果たせる人材の育成に努める。

#### 3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、半世紀にわたって築いたネットワークを活用して国際協力活動を推進し社会に貢献していく。

### II. 主な活動分野

#### 第1分野： 地域における国際交流活動を基本にした人材育成

- (1) 短期の海外派遣事業
- (2) 国際理解を深める勉強会やワークショップなどの研修プログラムの開催
- (3) 小中学校の国際理解教育への協力
- (4) 在住外国人への支援活動
- (5) 地域の人々と在住外国人との交流プログラム
- (6) 内閣府青年国際交流事業報告会の開催

#### 第2分野： 国際交流事業受入れへの協力及び自主事業による外国青年受入れ／派遣

- (1) 青年国際交流事業へのプログラム内容への提言
- (2) 行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3) ホームステイのアレンジ

- (4) 地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進

- (5) 団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

#### 第3分野： 国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対して、各国の事後活動組織と連携して問題解決に向けて取り組む

#### 第4分野： 都道府県IYEO及び会員のネットワーク強化と啓発活動

- (1) 全国大会、ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）などの開催
- (2) 都道府県IYEO役員研修の開催
- (3) ブロック内IYEO間の連携強化の取組
- (4) プリテンボード発行などによる会員間の情報共有

#### 第5分野：内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1) 「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
  - ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
  - ② 共通連携活動の取組
  - ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「世界青年の船」事業参加45か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAA)
  - ① SWYAA総会の開催
  - ② 共通連携活動の取組
  - ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日中青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
  - ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 「日韓青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
  - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 「国際青年育成交流」事業の交流国であるヨルダンとドミニカ共和国とのネットワーク形成
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成

#### 第6分野：青少年分野についての活動の啓発

- (1) 国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
- (2) 青少年分野に関わる公的な場への人材推薦及び積極的発言
- (3) 他団体との連携

#### 第7分野：内閣府青年国際交流事業募集広報への協力

- (1) 年間を通しての広報活動の工夫
- (2) 事業報告会及び事業説明会の開催
- (3) 大学での事業説明会への協力

#### 第8分野：財政基盤の確立

将来を展望した運営と財政基盤確立の取組

### III. 本部における事業計画

#### 1. 全国大会の開催

第26回全国大会埼玉大会 日程：平成22年11月27日(土)～28日(日)  
開催地：埼玉県

#### 2. 全国推進会議の開催

第52回全国推進会議 日程：平成22年11月26日(金)～27日(土)  
開催地：埼玉県

第53回全国推進会議 日程：平成23年3月5日(土)～6日(日)  
開催地：東京都

#### 3. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)

平成22年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度の関東ブロックについては、全国大会と同時開催とする。

ブロック毎に活動方針に沿ったスローガンを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。

#### 4. IYEO設立20周年記念からスタートした事業の継続

設立20周年記念を機に取り組んだ事業のうち、成果をあげたものから継続して取り組んでいく事業を選定して積極的に取り組む。(グローバル・フォト・コンテストの作品展示の推進、IYEO Cafe、広報活動の推進)

#### 5. 都道府県IYEO役員研修の開催

都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集めて、実務研修を行う。

都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。今年度は、活動方針に沿った活動を具体的に推進するにあたって必要

な運営能力の向上を目指したプログラムを組み立てること、特に考えて組み立てる力を身につけることを目指した研修とする。

日程：6月12日～13日(1泊2日) 開催地：東京

#### 6. 海外とのネットワーク

- (1) SSEAYPインターナショナル第22回総会の開催  
(日程：4月30日～5月3日 開催国：タイ)
- (2) 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催  
(日程：10月9日～13日 開催国：エジプト)
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日中青年親善交流」事業の中国既参加青年と連携
- (4) 「日韓青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携  
(「日韓交流連絡会議」の開催 日程：8月20日～22日 開催国：韓国)
- (5) 「国際青年育成交流」事業のネットワーク形成に向けて  
\*国内におけるAir-Net Dayの開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成に向けて

#### 7. 国際支援活動

- (1) インドシナ津波被害国であるスリランカへの支援(スリランカ教育支援プロジェクト)を始めとする「世界青年の船」事後活動連携組織(SWYAA)における国際支援活動
- (2) インドシナ津波被害国であるタイ、インドネシアへの支援、並びにタイの「For Hopeful Children Project」への支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動

#### 8. 青少年分野についての意識の啓発及び具体的な活動の推進

- (1) 子ども・若者育成支援推進法の普及・啓発への協力
- (2) 各種青少年国際交流事業へのリーダー推薦及び公的委員会等への人材推薦
- (3) 他分野、他団体との連携活動の推進(共催、後援、協力)
- (4) 国勢調査の広報活動への協力

#### 9. 事後活動「Bulletin Board」の発行

年5回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)都道府県IYEOの連絡文書発行に協力する。

A4両面スペースに各都道府県毎(またはブロック毎)に印刷して全体送付の際に同封する。

#### 10. 各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)及び(財)青少年国際交流推進センターと共催。

- (1) 第22回「世界青年の船」事業報告会  
平成22年6月20日(日)
- (2) 平成22年度「航空機による青年海外派遣」事業報告会  
平成23年2月6日(日)
- (3) 第37回「東南アジア青年の船」事業報告会  
平成23年2月20日(日)

#### 11. 平成23年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力

内閣府青年国際交流事業の充実をはかるために、広報活動の協力を重点をおいて取り組む。

- (1) 年間を通しての広報活動の工夫
- (2) 事業報告会及び事業説明会の開催
- (3) 大学での事業説明会への協力
- (4) 募集パンフレットの配布
- (5) マスコミへの紹介
- (6) その他、効果的広報活動を検討し推進

#### 12. 財政基盤の確立

会員に対しての呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。

(財)青少年国際交流推進センターでは2010年3月23日～30日まで、昨年に引き続き、自主事業として「タイ王国・スタディツアー2010」を実施し、全国から集まった21名が参加しました。

「タイ王国・スタディツアー2010」では、タイの「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」の生活する児童養護施設を訪問し、それぞれの施設で子供たちと共に生活・活動することを通じて、子供たちとのコミュニケーションを深めました。活動を通じ、国際協力活動を実践するとともに、国際協調の精神を養いました。

## <「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」とは...>

今年4月3日～5日、タイで、青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project (FHCP) 2010 (希望あふれる子供たちのためのプロジェクト)」が実施されました。FHCPは、第2回「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年ウィスィット・テッカムトーン氏が代表を務めるボランティアグループ「Fund for Friends」が毎年行う、「希望あふれる子供たち(Hopeful Children)」のための合宿型のプロジェクトで、20年目を迎えます。

このプロジェクトでは、社会的に恵まれない状況にある、孤児・ストリートチルドレン・被虐待児など、施設で保護・治療を受けている子供たち、また、視覚・聴覚障がい、肢体不自由などの身体障がい、精神・知的障がいをもつ子供たちなどを、「希望あふれる子供たち」と呼んでいます。希望あふれる子供たちは物質・教育的な制限があるため競争社会でのチャンスが少ないとしても、このプロジェクトへの参加を通じ、自分たちを思う人の存在に気づき、自信をもって育ち、競争社会においてしっかりと成長するきっかけとなることをねらって、このプロジェクトが行われています。

今回の「タイ王国・スタディツアー2010」では、当初、FHCPへ参加する予定でしたが、直前の日程変更により、FHCPへの参加はできませんでした。それに代わり、「希望あふれる子供たち」の生活する児童養護施設4か所を訪問しました。

## 【訪問施設】

### (1) 子供の村学園ムーバーンデック

カンチャナブリー県にある児童養護施設「子供の村学園ムーバーンデック」は、1979年に設立されたNPOで、両親のいない又は貧困・家庭崩壊などの事情で育児のできない家庭出身の子供たちを預かっている施設です。3歳以上の子供たちが共同生活をする場であり、タイ教育省から認可を受けた彼らの学校でもあります。子供たちが既成の概念にとらわれることなく、自分たちに最も適切なやり方(オルタナティブ教育)を受けることができる小さなコミュニティーです。

### (2) タンマヌラック

カンチャナブリー県にあるタンマヌラックは、仏教の精神に基づき尼僧により設立され、さまざまな理由で両親のいない又は育児のできない家庭出身の子供たちを預かっています。子供たちのうち、約3割は両親のいない子供たち、約3割は山岳地域のカレン族の子供たち、約4割はタイ・ミャンマー国境地域で生まれた無国籍のモン族の子供たちです。また、子供たち全体のうち7割強が女の子です。

### (3) Christian Care Foundation for Children with Disabilities in Thailand (CCD)

バンコクの北、ノンタブリー県にあるCCDは、経済的理由などにより育児のできない家庭出身の障がいのある子供たちをサポートしています。CCDでは、今のような理由で家族と生活できないとしても、子供は産みの親を知るべきと考えており、子供たちが産みの親と再会できることを目標の一つにしています。

### (4) Foundation of Rehabilitation and Development of Children and Family (FORDEC)

バンコク郊外にあるFORDEC(フォルデック)は、「困難を抱えたすべての人々に対する愛と心配り」をモットーに活動しています。その対象には、子供や若者、家族、高齢者、障がい者、ホームレス、放浪者、麻薬依存者、虐待被害者など、困難を抱えたすべての人が含まれます。今回のスタディツアーでは、バンコクの南東、サムットプラカーン県のスラム街に位置する低所得層家庭の子供たちのためのデイケアセンターを訪問しました。

月日	活動内容	場所
3月23日(火)	バンコク集合	バンコク
3月24日(水)	ナコンラーチャーシーマへ移動	ナコンラーチャーシーマ県
	Happy Hopeful Children Project 開会式、文化紹介 アドベンチャー・ベース、プールで子供たちと交流	グリナリー・リゾート ライフ・パーク
3月25日(木)	カンチャナブリーへ移動 クウェー川鉄橋(戦場にかかる橋)視察	カンチャナブリー県
	カンチャナブリーでの活動 子供の村学園ムーバーンデックにて 子供たちと交流 子供の村学園ムーバーンデック滞在(2泊)	
3月26日(金)	カンチャナブリーでの活動 植樹(平和祈念の植樹) タンマヌラック訪問(施設見学、子供たちと交流) 子供の村学園ムーバーンデックにて子供たちとの 交流会・文化紹介	カンチャナブリー県
	3月27日(土)	
3月28日(日)	クレット島(チャオプラヤー川の中洲)への デイトリップ	ノンタブリー県
	ノンタブリーでの活動 CCDにて子供たち・外国人ボランティアとの 交流会・文化紹介	
3月29日(月)	サムットプラカーンへ移動	サムットプラカーン県
	サムットプラカーンでの活動 FORDECデイケアセンターにて子供たちと交流 子供たちの自宅(低所得層家庭)訪問	
	バンコクへ移動 タイボランティアスタッフとの夕食会	
3月30日(火)	バンコクにて解散	バンコク



平和を祈念し、子供たちと植樹  
(カンチャナブリー)



障がいを感じさせない元気な  
子供たち(CCD)



2日間のボランティアを終え、修了証を手にする参加者全員(CCD)



ソーラン節を体いっぱい  
に表現する  
(グリナリー・リゾート)

「タイ王国・スタディツアーを終えて」

小宮山 尚子



FORDECの子供たちと  
(筆者後右)

内閣府にて2年間、非常勤職員として青年国際交流事業に携わってきた。裏方として働く中で「国際交流の現場に行きたい」という想いは日毎に増していた。それだけに今回「タイ王国・スタディツアー」に参加させていただけたことは大きな喜びであった。この旅はこれまでの4半世紀の人生を振り返る重要な機会となり、ターニングポイントといえる大きな経験となった。

初日から様々な施設を訪れ子供たちとの交流を重ねた。言葉で意志疎通ができないことへのもどかしさを感じつつも、同時にコミュニケーションの手段は決して言葉だけではないことも実感していた。「踊る・笑う——数少ない私にできること」それが自分自身を表現する力となり、人とつながる力となって自信を与えてくれた。私が踊り出すだけで子供がぐすぐすと笑う。調子にのってまた踊ってみせる。今度は子供が真似してみせる。私も笑う。つられて子供がまた笑う。一緒になって大笑い…。特に今回交流した施設の子供たちは親がいなかったり、家が貧しかったり、何かしらの障がいを抱えていたりする。彼ら

のバックグラウンドは簡単に私が理解できるようなものではない。彼らと私の間には明らかに「違い」がある。全く違った生活環境にある者同士が大声で笑い合う空間を共有しているその瞬間の幸福感といったらたまらなかった。あなたも楽しい、私も楽しい。そういう空間を分かち合っていることが理屈抜きにすてきだと思えた。人を笑わせている瞬間に私は自分の存在意義を感じ、生きる原動力を得ることができる。それを確信できたことは今回の旅の大きな収穫であった。

滞在中は不安定な情勢ながらも、幸いその影響を受けることなく、無事全日程を終えた。ほほえみの国、タイ。また絶対に来よう。成長した子供たちの姿をまたこの目で見に来よう。タイの温かさを胸に帰国の途についたのだった。

しかし、4月10日、反政府デモ隊と治安当局の衝突の影響を受け、ついにタイで日本人が亡くなってしまった。私は今、目をそらすことのできない悲しい現実を前に複雑な心境に陥っている。しかし、タイで得たものや感じたもの、子供たちの笑顔や涙に傷りはなく、彼らの夢は守られるべき尊いものであることに間違いない。「私にもできることがある」というタイで得た実感。それを以て行動すること・考えること・続けていくことこそ、今、私にできることだと感じている。



塗り絵に挑戦(ムーバーンデック)



子供たちと折り紙で交流(タンマヌラック)



子供たちと折り紙で交流(CCD)



タイの伝統ダンスを披露する子供たち(CCD)



給食を前に嬉しそう(FORDEC)

※今回の「タイ王国・スタディツアー 2010」の後、参加者の一人が、4月3日～5日にタイ・ラヨンで実施された「For Hopeful Children Project (FHCP) 2010 (希望あふれる子供たちのためのプロジェクト)」に参加しました。



子供たちと作った鶴と共に

「FHCPに参加して」

第22回「日本・韓国青年親善交流」事業参加青年 宮内 佐和子

今回FHCPキャンプに参加させていただきました。一年に一回しかないこのキャンプを、多くの子供たちが心待ちにしています。そんな待ちに待ったキャンプで、子供たちと共に楽しい時間を共有できたことを嬉しく思います。このFHCPキャンプの前にスタディツアーとして各施設を訪問し、子供たちがどの様に生活しているのを見たり、共にふざけあったりできたおかげで、多くの子供たちを「集団」としてみるのではなく「個人、友達」としてみる事ができました。そのため、友達のために何が出来るのか具体的に考え、行動することができましたし、一外国人としてではなく友達として、彼らの幸せな時間を近くで共に過ごすことができました。また、主催者であるウィスィットさんの理念を実際に身をもって学んだこと、そしてひとつの目標に向かって協力する多くの仲間に出会えたことなど、このFHCPキャンプは私に多くのものを与えてくれました。FHCPは私の目標であり、出発点です。このキャンプでの体験をもとに、私にできる活動を続けていきたいと思っています。



## スリランカ教育支援プロジェクト One More Child Goes To School

笑顔の輪を広げよう ～子供たちに夢を届けよう～



IYEOの国際支援活動の一つであるOne More Child Goes To Schoolプロジェクトは、2008年から学校に通うことが困難な子供たちへ学用品を贈るプロジェクトを実施しています。併せてペアレンツ（里親）プロジェクトも開始し、2010年度募集のペアレンツは25組で、30名の子供たちを支援していくことが決まりました。

### □スリランカ南部マータラ県ハクマナ地区にあるBuddha Jayanthi Vidyalaya 小学校視察

2009年11月に奨学金（ペアレンツ）プロジェクトの本格始動に向けて、小学校を視察しました。

首都のコロンボから小学校までは、車で約4～5時間かかります。学校では、代表者が生花のレイを首に何重にもかけてくれるなど、全校生徒が好意的に迎えてくれました。初めて会う日本人に、はにかんで微笑んでくれた子供たちが印象的でした。視察後には、職員室で校長先生から学校の現状や子供たちの普段の生活について聞き、どのような支援が必要かを話し合いました。それを踏まえ、ペアレンツ・プロジェクト（奨学金制度）では、経済的に困難な子供たちを支援しつつ、学校への支援をすることも決まりました。



#### 小学校の様子

- 校舎は3つに分かれていて職員室のある校舎は最も古く、ドアや窓もない
- 職員室以外は壁がないため、仕切りをして教室として使用。夏は埃が入り、雨季には雨が降りこみ、授業に集中するのが困難
- 各教室にある机や椅子は、絵の具がついていたり削れていたりして古い
- 全校生徒と教職員を合わせて約600名の学校にトイレが1つ（現在3つ建設中）
- 図書館には幅60cmほどのキャビネットに本が数えるほどしかない



### ■チャリティー・イベント報告

#### ◆スリランカ紅茶教室 2009年12月13日(日)

スリランカ紅茶を販売をしているヴェル・カルナモルティ氏を講師として招き、紅茶のテイastingや紅茶の入れ方を実践するチャリティー・クリスマス・ティー・パーティーを東京世田谷区のパクチーハウス（レストラン）にて開催しました。約40名が参加。スリランカでお世話になったSugathadasa Pathinayaka夫妻も参加してくださいました。Sugathadasa氏はスリランカ文化大臣の私設秘書で、第5回「青年の船」の現地通訳を務められ、現在マータラ県に在住しています。



#### ◆スリランカ・チャリティー・ランチ 2010年3月28日(日)

スリランカ・チャリティー・ランチを新宿のスリランカレストラン「コートロッジ」で行いました。「コートロッジ」での開催は、一昨年に続き二度目であったため、レストランのスタッフの方々も快く協力してくださいました。32名が参加。3種類のスリランカカレーとゴダンバ、ミルクティーを味わい、チャリティーラッフルやオークションで盛り上がり、交流の輪が広がりました。28,600円の寄付があり、スリランカの子供たちへ学用品を届ける予定です。



今後も様々なチャリティー・イベントを企画していきます。プロジェクトに興味がある方は、以下のアドレスにお問い合わせください。  
スリランカ教育支援プロジェクト・チーム onemorechild@gmail.com



青年社会活動コアリーダー育成プログラム(以下、コアリーダー事業)は、高齢者関連、障害者関連及び青少年関連の各分野において社会活動に携わる日本青年を海外へ派遣し、また海外の民間組織等で社会活動の重要な役割を担っている青年リーダーを日本へ招へいするという相互の交流を通じ、社会活動の青年コアリーダーの能力の向上と相互のネットワークの形成を目指しています。

招へいプログラム中の平成22年2月4日～7日に実施されたNPOマネジメントフォーラム(招へい青年と別途募集した日本参加者の合計68名が参加)では、以下の提言文が採択されました。

### NPOマネジメントフォーラム2010 提言文

多様化している現代社会においては、今までの枠組みでは解決しきれない課題が次々に起こり、早急な対応が求められています。

政府や地方行政が取り組む施策の具体的な担い手として、非営利セクターへ大きな期待が寄せられています。同時に、行政と企業などの民間組織との連携の橋渡し役や、地域社会及び様々な分野のニーズに応じて、きめ細やかな対応ができるのも、非営利セクターならではの特質です。

これらの役割を効果的に果たしていくためには、多くの有能な人材が必要であり、昨年の本フォーラムでは、「組織運営マネジャー」「事業運営マネジャー」「ボランティアリーダー」の三者の育成について話し合いました。

本年度のプログラムを組み立てるにあたって、昨年の成果を評価したうえで、最も早急に育成することを求められているのが、「事業運営マネジャー」であると認識されました。

よって、本年度の「NPOマネジメントフォーラム2010」では、活動の中核となり、現場と管理部門をつなぐことができる力を持った「事業運営マネジャーの育成」に焦点を当てて話し合うこととしました。

そして、「事業運営マネジャーとして活動する者が、自らの力をいかに伸ばすか」と「組織の管理者として、事業運営マネジャーの育成にいかに取り組むか」の2グループに分かれて議論し、以下のとおりまとめました。

#### 1. 事業運営マネジャーとしての能力向上

「NPOマネジメントフォーラム2010」を通して、私たちは事業運営マネジャーとして様々なコミュニケーション能力や組織運営能力などが必要であり、OJTとOff-JTを組み合わせた効果的な研修によって高められるものと認識しました。

これらを踏まえた上で、NPOの事業運営マネジャーは組織の目的・理念と展望を明確に把握し、そしてNPOセクターに関する幅広い視野と理解を有することが最も重要だと考えます。今回の議論において、事業運営マネジャーは、事業において人材及び物的資源、財務の管理を行うマネジャーであると同時に、組織を主導し構成員の意識を高めるリーダーである必要があるという結論に達しました。

私たちが事業運営マネジャーとして明らかにした能力の例は以下のとおりです。

まず、コミュニケーション能力が必要です。

それは広い視野を持つとともに、スタッフへ組織の展望を伝える責任があります。また、スタッフやボランティア全員が組織の方向性に関するビジョンを共有し、組織の目的達成に向けて活動するために、管理部門とチームとの橋渡し役を担う能力です。

次に、人材と財務、物的資源など、組織の中のすべての資源を効率的に活用できる組織の運営能力が必要です。

そして、スタッフの能力向上に関わる能力があります。事業運営マネジャーは事業を行うにあたり、常に積極的にスタッフの意見を傾聴し、建設的なフィードバックを提供します。また目的の達成時にはチームのメンバーを総合的に評価し、スタッフとボランティアの能力や実務に対して支援・監督を行う必要があります。

私たちは皆、上述の事業運営マネジャーとしての能力向上のために、OJTとOff-JT双方の研修の重要性を認識しました。

この研修には、組織の目的や理念の理解等の体系的な研修、そして支援的監査や仕事ぶりの観察、ピアサポートなどの専門性を高める研修、また各分野における最新の知識を新聞や雑誌などを通じて学び、維持するなどの自己研鑽を含みます。

これらの研修を通じて、以上の能力を習得することによって、私たち事業運営マネジャーは、より効率的な組織の発展及び対象者、スタッフ、ボランティアのニーズを満たすために活動することができます。

#### 2. 事業運営マネジャーの育成への取組

市民社会の重要性は、世界的なスケールで拡大しており、私たちは事業運営マネジャーの能力を向上させることによって、市民社会で重要な役割を担うNPOを発展させていきます。

私たちが行ったディスカッションの中では、事業運営マネジャーに必要な四つの重要な能力を確認しました。

- リーダーシップ：優れた決断力、人とプロセスに対しての効果的な調整力と行動力は、リーダーシップに関する特に重要な能力です。
- コミュニケーション能力：明白、かつ公正に分け隔てることなく、スタッフやユーザー、ボランティアの意見を傾聴すること、そして的確な発信をすることです。
- 問題解決能力：問題を把握し、解決策を見出して、問題が大きくなる前に解決することです。
- 心の知能指数(EQ)：自己啓発、他者へ敬意を払う心と他者に共感できる力のことです。

また、私たちは、これらの能力を育成するために必要な取組について話し合いました。これらの取組はOJT、Off-JTに分けて考えることができます。例えば、コーチング、交渉トレーニング、シャドーイング、自己能力のセルフ・アセスメント(自己診断)などがあります。その他、今回のNPOマネジメントフォーラムのような、事業運営マネジャーの育成に必要なネットワークを構築させていく、他のNPOや行政、民間組織との他分野との交流及び連携は効果的であると考えました。

その上で、私たちは今後もこのトピックで得た成果へのコミットメントと、熱意を維持するために、個人(自分の所属団体)及びグループとしてのアクションプランを作りました。

私たちは上記の能力を備えた事業運営マネジャーを育成することで、以下のことが可能であると信じています。

- (1)スタッフとボランティアの支援
- (2)組織のイメージ(認知)向上
- (3)NPOと行政、民間の関係性を強化すること

そして、市民活動を活性化させることが、我々の社会の未来にプラスの変化をもたらすことができると信じています。

今後、私たちは、この提言をもとにして、自分が所属する団体において、今回のフォーラムで得た情報や考えを広めることからスタートし、マネジメント力を養う研修の取組を試みます。

また、同じ立場で活動する仲間と協力できるネットワークの構築に取り組み、人材育成の考え方を広めることを努力します。そして、政府や地方行政、企業とより強く連携して、広く社会に貢献できる活動の展開を目指して、様々な活動をマネジメントできる力を得るために自己研鑽に取り組みます。同時に、このような人材育成の場を政府や地方行政、企業との協力のもとに創り出すことを目指します。

こうした目標実現のために、このプログラムで得た人的ネットワークを継続させ、事業の成果を活用するよう努力します。

NPOマネジメントフォーラム2010参加者一同

## 第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」 招へいプログラム

コアリーダー事業招へいプログラム中の平成22年2月9日～14日に実施された地方プログラムについて紹介します。

派遣事業	平成21年 10月11日～20日	派遣先：英国(高齢者分野、9名)、フィンランド(障害者分野、8名)、ドイツ(青少年分野、9名) ・招へい青年を受け入れる道県からの派遣者は、招へいプログラムの各種実行委員として受入れに協力
招へい事業	平成22年 2月2日	招へい青年来日 英国(12名)、フィンランド(13名)、ドイツ(13名)からそれぞれ三分野の青年リーダーを招へい
	2月3日	開会式・オリエンテーション・行政官講話・歓迎会 日本のNPO事情及び各分野の現状について、行政官による講義を実施
	2月4日 (招へい青年のみ)	NPOマネジメントフォーラム ＜課題別視察＞ NPOマネジメントフォーラムのディスカッションテーマ(トピック1と2)に即した施設を訪問し、実際の現場の視察及び関係者との意見交換を実施 【トピック1：事業運営マネジャーとしての能力向上】 AM：社会福祉法人 東京コロニー / PM：財団法人 修養団 【トピック2：事業運営マネジャーの育成への取組】 AM：財団法人 日本YMCA同盟 / PM：社会福祉法人 ベタニアホーム
	2月4日～7日	NPOマネジメントフォーラム 「NPOにおける事業運営マネジャーの育成」を総合テーマに、上記トピック(1と2)に基づき、日本のNPO団体関係者と共に討議を実施
	2月8日	自主研修・日本文化体験
	2月9日～14日	地方プログラム 【高齢者分野】島根県：生きがいのある高齢者の生活 【障害者分野】北海道：障害者の社会参加のための支援 【青少年分野】滋賀県：ユースワーカーの育成の在り方
	2月15日	コース発表会・評価会・歓送会
	2月16日	招へい青年帰国

### 地方プログラム

今年度の地方プログラムでは、各分野(コース)に分かれ、島根県(高齢者分野)、北海道(障害者分野)、滋賀県(青少年分野)を訪問し、コーステーマに沿ったプログラムを実施しました。訪問道県では、関連施設を訪問し、NPO及び各分野の関係者と共に地方セミナーを実施しました。

#### 島根県

##### 第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」英国派遣団 受入事業実行委員 小須賀 昭雄(島根県)

平成21年10月に高齢者関連分野の一員として英国の派遣プログラムに参加し、今回は事後活動の第一弾として、島根プログラムの実行委員会に関わりました。

英国訪問時には、平成20年度の英国からの招へい者が、前回の島根プログラムに感謝する気持ちで、我々に「伝えよう」と時間を惜しんで説明してくれました。そのことを思い返し、私からは、関係する任意団体としての忌部(いんべ)地区社会福祉協議会の受入れでは、地域福祉の説明に重点を置き、地方セミナーではできるだけ一般参加者に外国の福祉を知ってもらおうよう「伝える」ことに努めました。

松江市忌部地区では、限られた公共交通機関に対応するため、行政に働きかけてコミュニティバスの運行を実現させたり、独居高齢者などの家庭内のわずかな困りごと(電球交換など)を依頼できるボランティア人材バンクを設立したりするなど、生活者の課題解決を支援する住民組織の視点について、地域の福祉推進員なども交えて、招へい者と話し合うことができました。

招へい者をただ受け入れるだけでなく、お互いが「伝え合う」過程で、ネットワークの拡大と循環ができたと考えています。特に、国際ネットワークしまねの一員となり、事後活動の第一歩として参加した受入実行委員会では、多彩な人脈と高い能力を持つ実行委員から大いに刺激を受けました。

参加させていただいたことに感謝申し上げます。

##### 日程(島根県・高齢者分野)

日程	プログラム
2月9日	県庁表敬訪問 島根県の高齢者福祉施策についての講義 歓迎会
2月10日	松江市社会福祉協議会、忌部地区社会福祉協議会 社会福祉法人敬仁会
2月11日	鷹巣コミュニティセンター、鷹巣竹工房
2月12日	地方セミナー、ホームステイ
2月13日	歓送会
2月14日	コース評価会



松江市の忌部地区社会福祉協議会を訪問する

第8回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」  
フィンランド派遣団  
受入事業実行委員 小松 健児(北海道)

札幌市と函館市で実施された北海道プログラムのうち、私が活動している函館市では、いろいろな障がい種別で、かつ、様々なライフステージを視察し、地元で関わる人も招へい青年も双方に学ぶ機会を提供したいと考えました。

社会福祉法人侑愛会の児童期通園施設「つくしんぼ学級」では、自閉症児がほとんどであるため、教室を一人用のスペースに区切っており、その様子を見たドイツからの招へい者はとてもショックを受けたようでした。ドイツではインクルージョンの考え方が進んでおり、自閉症児もなるべく同じ教室で学ぶという体制だそうです。しかし、「つくしんぼ学級」では、自閉症児支援方式(TEACCH、自閉症及び関連するコミュニケーション障がいの子供のための治療と教育)を採用し、「構造化」した教育を実践しています。このように国によって支援方法や考え方の大きな違いがあることから、それぞれの良さを学び、より効果的な方法について考えるきっかけとなりました。

地方セミナーには、地元の多くの方が参加され、各自が日本の現状について問題意識を持つことができました。函館市は障がい当事者の活動が盛んで、中でも「ユニバーサル映画祭」「ミュージックサイン」などユニークな活動が多く、先進的事例を生み出せる活力のある地域であり、今回の受入れで得るものはとても大きかったと思います。

私自身の活動としては、今後もフィンランド視察で学んだことをより多くの方へ報告し、共有する場を設定することを通じ、現在従事している就労支援の分野に関して、日本の現状を改善していく提言をしたいと考えています。

## 日程(北海道・障害者分野)

日程	プログラム
2月9日	特定非営利活動法人飛んでけ!車イスのメンバーと交流昼食会 県庁表敬訪問 障害者福祉施策についての講義 歓迎会
2月10日	アイヌ民族博物館(しろおいポロトコタン) 社会福祉法人伊達コスモス21ふみだす
2月11日	社会福祉法人函館仁愛会函館リハビリセンター(身体障がいの視点) あいよる21(函館市総合福祉センター) 車椅子バスケット ハダース(身体障がいの視点)
2月12日	精神障害者通所授産施設ぼぼろ館(知的、精神障がいの視点) 社会福祉法人侑愛会つくしんぼ学級(知的、発達障がいの視点)
2月13日	地方セミナー、ホームステイ
2月14日	歓送会、コース評価会



函館リハビリセンターで行われたスタッフとのディスカッションの際にファシリテーターを務める筆者(左から5人目)

## Dorothea WÜNSCH, German Delegation, Delegation Leader

Shiga Prefecture has a strong commitment to supporting and piloting new initiatives for their young people. A framework and youth policy is in place to support this development.

At Shiga-Pref. Youth Union we soon found a common understanding that youth group activities are the origin of youth development. The discussion on how to motivate young people for voluntary activities, how to keep them active and thereby guaranteeing a sustainable youth work with a primary voluntary workforce was very interesting. Personally I was very much fascinated by the work at the multicultural day care center "Support House Minna-no-Ie" and by the efforts being made to integrate children with foreign nationalities into community.

I was impressed by the diversity of NPO activities and the strong commitment to voluntary engagement for community activities. It became clear to me how important volunteering is in the NPO sector in Japan. Moreover, the program showed that many of the challenges and problems we face are similar; the lack of financial resources, challenge to motivate volunteers, networking among NPOs, partnership between NPOs and government, participation of youth in the decision making process, etc.

I will continue to use the strong network of participants from Japan, UK, Finland and Germany and further exchange ideas then share best practice from the different areas of work.



滋賀県知事と記念品の交換をする筆者(左)

## 日程(滋賀県・青少年分野)

日程	プログラム
2月9日	県庁表敬訪問 青少年施策についての講義 歓迎会
2月10日	あすくる草津、ホームステイ
2月11日	ホームステイ
2月12日	グループ①多文化保育所「サポートハウスみんなのいえ」 グループ②日本語初期指導教室「さくら教室」 滋賀県青年団体連合会
2月13日	地方セミナー、歓送会
2月14日	コース評価会

## 【要旨】

## ドイツ団 団長 ドロテア・ヴンシュ

滋賀県は、青少年育成の新たな取組を積極的に支援・推進している。滋賀県青年団体連合会では、青年活動が青少年育成の原点であることを理解した。ボランティア活動に対する青年のやる気を引き出し、持続し、現在のボランティア活動を持続可能なユースワークにする方法についての意見交換や、多文化保育所「サポートハウスみんなのいえ」で、外国籍の子供が地域に溶け込めるための取組は興味深かった。

非営利活動の多様性や地域活動に自主的に取り組む姿勢が印象的だった。日本の非営利活動でのボランティアの重要性を理解した。財源不足やボランティアのモチベーション維持、非営利団体同士の連携、非営利組織と政府間のパートナーシップ、政策決定の際の青少年の参加など、我々の直面している課題は類似していた。

日本、英国、フィンランド、ドイツの参加青年の強力なネットワークを活用し、意見交換や成功事例の共有を続けていきたい。

# 青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第25回全国大会 第16回青少年国際交流全国フォーラム 広島大会

平成21年12月5日(土)～6日(日)、広島県廿日市市にて、日本青年国際交流機構第25回全国大会が実施されました。

内閣府(総理府・総務庁)青年国際交流事業の50周年を記念し、またIYEOの活動の基本でもある「交流」を意識し、テーマは「One Piece for Peace ～交流で広がる平和の輪」と定められました。広島東洋カープヘッドコーチ兼投手コーチの大野豊氏による基調講演、「平和」をテーマとした分科会など、広島らしいプログラムが並び、大会は計273名の参加を得ました。

企画の中核となった実行委員会はもとより、中国ブロックメンバーが総出で当日の運営に当たり、チームワークの良さがアピールポイントともなった大会でした。



「交流をパワーに換える」というテーマで大野豊氏の講演を聴く



開会式に来賓として来場された湯崎英彦広島県知事と懇談する主催者代表者



【分科会②】被爆体験を語る坪井直氏



【分科会④】田中治彦教授の援助と国際協力を考えるワークショップに加わる参加者

## 日程

大会1日目 12月5日(土)		大会2日目 12月6日(日)	
12:30～13:30	受付	09:00～09:20	表彰式
13:30～14:00	開会式	09:20～10:30	事後活動報告
14:00～15:15	基調講演「交流をパワーに換える」 講演者 広島東洋カープヘッドコーチ兼投手コーチ 大野豊氏	10:30～10:45	閉会式
15:30～17:15	分科会	11:00～	地域理解研修 ①利き酒師と行く酒都西条めぐり ②宮島文化体験(しゃもじ作り、手焼きもみじ体験) ③お好み焼体験 ～作って食べよう広島風お好み焼～ ④原爆資料館・平和祈念公園見学(ボランティアガイド付き)
19:30～21:30	懇親会		

## 分科会

分科会 No.	分科会名	講師	内容
①	厳島神社の歴史を探求 ～宮島のプロと宮島を歩く～	宮島ユネスコ協会理事 岡崎 環氏	世界文化遺産である、厳島神社について、「宮島のプロ」と一緒に散策しながら学びます。
②	平和の輪をつなぐ分科会1 ～被爆地広島で平和のためにできること～	日本原水爆被害者団体協議会 代表委員 広島県原爆被害者団体協議会 理事長 坪井 直氏	あの日、1945年8月6日午前8時15分に広島で何が起こったのか? 「広島を訪問するからには、原爆のことをもっと知りたい!」というみなさまからの要望にお応えした、被爆者の方の体験を聞く分科会です。
③	平和の輪をつなぐ分科会2 ～紛争地域で感じた平和のためにできること～	鳥取地球人クラブ 代表 中尾 和則氏	中東地域を、実際に旅した冒険家が感じた「国境を越えた価値観」とは? 紛争地域から見た真の平和を被爆二世が訴えます。
④	援助と国際協力について考えるワークショップ	立教大学文学部教育学科教授 田中 治彦氏	「援助・国際協力」の奥深さを体験するワークショップ。タイの学校を支援するプロジェクトを例に、援助する側を体験しながら国際協力のタイプとその課題を探ります。
⑤	剣玉からつながる世界 ～剣玉を通じた交流とその魅力の体験～	日本剣玉協会 広島総支部長 広島県IYEO 今田 弘武氏	けん玉伝道師今田氏によるけん玉講座。子どもから大人まで夢中になれるその魅力が世界に交流の輪を広げています。
⑥	新たな交流ツールを体験 ～コミュニケーション能力を高めるワークショップ～	インプロ×OKAYAMA代表 菅田 真理子氏	年齢、国籍を越えて、打ち解ける笑顔の手法、インプロ=即興劇のワークショップです。
⑦	宮島の文化・歴史を学ぶ1 ～しゃもじ作り体験～	小田木工所 濱岡 寛次氏	荒削りのしゃもじからオリジナルの「しゃもじ」を作ります。
⑧	宮島の文化・歴史を学ぶ2 ～手焼きもみじ体験～	やまだ屋 三上 明彦氏/浅野 禎基氏	広島銘菓「もみじ饅頭」を生地から作り、手焼き器具で焼きます。



日本青年国際交流機構第25回全国大会実行委員長  
高下 正晴

広島で全国大会を開催することが決まってから約1年間、広島県IYEO、中国ブロックを挙げて準備をしてきましたが、ようやく無事に終わることができました。今は、終わってよかった、ほっとした、という気持ちで一杯です。約270名の方に集まっていた大会でしたが、事故なく終わることができて本当に良かったと思います。

全国大会を終えて思うのは、1年に1回、会員が一堂に会する機会があるということの重要性です。

全国大会では、日頃は国際交流に関わる密度も、深さも異なっていますが、1箇所に集まって同じプログラムを体験し、酒を酌み交わし、いろいろな話をします。その中で、胸がわくわくするような刺激を受け、一体感、高揚感を感じ、自分がかつて国際交流事業に参加していたときと同じような感覚を得ているのではないかと思います。そうして、自分はIYEOの一員だということを再確認し、それぞれの地元に戻って、各地で活動していくという循環を生むエンジンになっているように思います。これを毎年繰り返していくことによって、IYEOの進む方向のベクトルをそろえていく重要な役割を果たしているのではないかなという気がします。これが、事業開始から50年も経った今でも、これだけの熱意を持って運営できている秘密ではないかと思います。

そういった重要な意味を持つ全国大会の1ページとして、広島大会はふさわしい大会だったのかどうか、私自身は大会運営の渦の中にいたので全く客観的に判断することはできませんが、少なくとも、広島らしさを前面に押し出したプログラムにはできたと思います。何よりもうれしかったのは、多くの方から笑顔と「ありがとう」という言葉をいただいたことです。きっと来ていただいた方にとって、地元に戻って1年間活動するための燃料の一部になれたのではないかと思います。

また、広島県IYEO、中国ブロックの各県にとってみれば、今回の大会は間違いなくすばらしいエンジンになりました。準備を進めていく中で様々な連携が生まれ、組織内部の活性化につながりました。自分たちの地元についてじっくり深く考えることで、新たな魅力や、ネットワークの発見がありました。自分たちは、これだけの宝を持ち、これだけの力があつたんだということを改めて知ることができました。本当に得るものが多かったと思います。

広島で全国大会をすることができて、本当に良かったと思います。

広島にお出でいただいたみなさん、協力していただいたみなさん、本当にありがとうございました。



【分科会①】宮島を訪れた参加者



【分科会③】世界63か国を旅した体験について語る中尾和則氏の話聴く



【分科会⑦】しゃもじ作りに取り組む参加者



【分科会⑤】今田弘武氏からけん玉の指導を受ける



【分科会⑥】言葉を使わずにアイスブレイキングを行う「インプロ」を体験する



【分科会⑧】おいしい手焼きもみじを作る参加者

## 青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第26回全国大会 第17回青少年国際交流全国フォーラム 埼玉大会のお知らせ

期日：2010年11月27日(土)～28日(日)  
会場：ナチュラルファームシティ農園ホテル  
住所：〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町上の台5911-1  
TEL: 0494-22-2000 FAX: 0494-23-2000  
アクセス：西武池袋線、西武秩父駅より車で約7分(無料送迎)、  
関越自動車道 花園I.Cから皆野寄居バイパス経由約40分  
\*詳細は後日お知らせします。

## チリ大地震による災害に対する募金のお願い

平成22年2月27日に発生したチリの地震は未曾有の大災害となり、現地では、救出活動や、感染症に対する対策がなされていますが、復興までに長い時間を必要とすることは明らかです。

こうした事態において、日本青年国際交流機構では、「日本青年国際交流機構大規模災害支援積立金に関する内規([http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/dl/naiki\\_saigai\\_061203.pdf](http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/dl/naiki_saigai_061203.pdf))」に基づき、お見舞金として10万円を拠出しました。寄付先は、内閣府青年国際交流事業「世界青年の船」事業の参加国であるチリの事後活動組織の代表と協議の上、テレトン(Teleton:チリ版、24時間テレビ「愛は地球を救う」のような番組で、チリ国内において国民に支持されているチャリティーイベント)とし、3月25日に送金しました。その後、チリの事後活動組織でも活動を立ち上げ、これから冬の季節に突入する被災地区に電気・暖房機器の提供を始めました。現在は、特にその活動に対する義捐金を必要としています。

IYEOでは、下記の口座に寄付金を募ります。今回は、第一段階として下記の期日を設定しますが、復興までに時間がかかると思われるので、長期的な支援ができることを願っております。なお、寄付金総額のうち10万円は、送金分としてIYEOの大規模災害積立金に戻され、10万円を超えた全てを改めて送金することとします。皆様の御協力をお願いします。

1. 口座名称：日本青年国際交流機構
2. 口座番号：郵便振替口座 00100-4-463830
3. 募金額：1,000円以上\*備考欄に「チリ大地震募金」と記載してください。
4. 募金期間：平成22年6月25日(金)まで

<問い合わせ先>

日本青年国際交流機構事務局 本田  
TEL: 03-3249-0767 / FAX: 03-3639-2436  
E-mail: kaigi@iyeo.or.jp

## 第22回「世界青年の船」事業帰国報告会 「世界と私をつないだ航海 ～ここから家族が広がった～」



- 日時：6月20日(日)13:00～16:30
- 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
国際交流棟・国際会議室  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
TEL: 03-3467-7201(代表)
- 交通：小田急線 参宮橋駅 下車徒歩約7分  
東京メトロ千代田線 代々木公園駅 下車徒歩約10分

- 主催：内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
(財)青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構(IYEO)
- 事前申込先：(財)青少年国際交流推進センター  
参加ご希望の方は①～⑤をメール又はFAXでお知らせください。  
①氏名 ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス  
⑤この報告会をどのようにして知ったか  
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436  
E-mail: swy22@iyeo.or.jp

## 平成22年度「国際理解教育支援プログラム」

(財)青少年国際交流推進センター(CENTERYE)は、国際理解を推進することを目的として、在日外国青年等を講師とし日本の学校やそれに類する施設に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を実施しています。

本プログラムへのご質問、利用・参加の希望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。  
e-mail: iuesp@iyeo.or.jp, TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436



### 今月の表紙

第3回グローバル・フォト・コンテスト  
テーマ：「微笑みと笑い」

タイトル：Friendship keeps me smiling  
(友達がいるから、僕笑うんだ)  
撮影者：Felipe Herrera  
(SWY19、チリ)  
撮影場所：チリ



### 編集後記

P.8の「スリランカ教育支援プロジェクト」で、スリランカの子供たちが描いた絵を見せてもらいました。とても鮮やかな色彩を使った生き生きとした絵で、絵の中の動物や人が動き出しそうでした。子供たちが落ち着いて勉強できるようになることを願わずにはいられません。(3)

## MACROCOSM 5月号 vol.90

2010年5月31日発行  
編集 マクロコスム編集委員会  
発行 (財)青少年国際交流推進センター  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
2-35-14 東京海苔会館6階  
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436  
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp  
URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)  
<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)  
編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
日本青年国際交流機構(IYEO)  
定価 200円(本体191円)  
印刷所 株式会社デックス  
TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

# New NIPPON MARU CRUISE

## by TOPTOUR

IYEO会員  
5%OFF



数々の感動と様々な思い出を共にしてきた「にっぽん丸」が2010年3月に生まれ変わりました。  
リニューアルされた「にっぽん丸」。是非この機会にクルーズライフをお楽しみ下さい。

記載の5つのクルーズにつきまして、IYEO会員の皆様と同行の皆様一律5%割引いたします。

快適な船旅を、お約束します。

 <b>神戸/横浜のんびりカジュアルクルーズ</b> 2010年10月28日(木)~10月29日(金)	美しい夜景に彩られる神戸港を出発し、横浜へと向うワンナイトクルーズです。心づくしのおもてなしのなか、カジュアルな雰囲気の中で、にっぽん丸ならではの優雅な時間を体験していただけます。	<b>■旅行代金</b> 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 <b>36,000円~180,000円</b>	グランドスイート <b>36,000円~180,000円</b>
 <b>東京/大阪のんびりカジュアルクルーズ</b> 2010年11月4日(木)~11月5日(金)	お昼に東京を出発し、翌日の午前中に大阪に入港するワンナイトクルーズです。船内では選りすぐりのエンターテイメントや、おいしい食事をお楽しみください。	<b>■旅行代金</b> 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 <b>36,000円~180,000円</b>	グランドスイート <b>36,000円~180,000円</b>
 <b>博多/神戸/横浜カジュアルクルーズ</b> 2010年11月17日(水)~11月19日(金)	博多を出発し、神戸を経由して横浜をめざします。大小の島々が点在する瀬戸内海の航海、船内ではバラエティー豊かなイベントをお楽しみいただける、2泊3日の充実したクルーズです。	<b>■旅行代金</b> 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 <b>72,000円~360,000円</b>	グランドスイート <b>72,000円~360,000円</b>
 <b>ウィークエンド横浜ワンナイトクルーズ</b> 2010年11月19日(金)~11月20日(土)	ウィークエンドをにっぽん丸で楽しむ、ワンナイトクルーズです。ヘッドシェフ自慢のディナーをお楽しみ下さい。	<b>■旅行代金</b> 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 <b>38,700円~187,000円</b>	グランドスイート <b>38,700円~187,000円</b>
 <b>横浜発着 熱海花火と新宮クルーズ</b> 2010年12月12日(日)~12月14日(火)	熱海花火を船上から観覧したあと、世界遺産をはじめ観光資源の豊富な新宮へ寄港します。自慢のお食事はヘッドシェフが腕によりをかけたクリスマスディナーをご用意致します。 (花火大会は天候により実施されない場合がありますので、あらかじめご了承ください。)	<b>■旅行代金</b> 大人お一人様 (船内食事付・消費税込)	グループ3 <b>85,500円~400,000円</b>	グランドスイート <b>85,500円~400,000円</b>

詳しい旅行条件を説明した書面をお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込み下さい。最少催行人員2名様、全食事付き。添乗員は同行しませんが、船内では船のスタッフがお世話いたします。

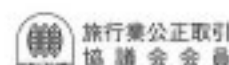


**トップツアー株式会社**

●旅行企画/実施 **国内旅行センター** 〒1153-8550 東京都目黒区東山 3-8-1

●お問い合わせ・お申し込み **国際旅行事業部** 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25 <http://toptour.jp>

**新宿支店** 総合旅行業務取扱管理者：磯 康彦 クルーズデスク：鈴木・坂本  
観光庁長官登録旅行業者第36号 (社)日本旅行業協会正会員



営業時間 平日：09:30~18:30 土・日曜祝日休業

**TEL.03-5348-3500**  
**FAX.03-5348-3799**

# そのにっぽんでは、 大人が楽しく生きている。

NIPPON MARU



にっぽん丸撮影：斎藤剛志

## 東北夏祭りクルーズ — 6日間

2010年 8月2日(月)～8月7日(土) 横浜～秋田～青森～横浜

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

222,000円～1,050,000円

祭り一色に染まる東北の夏、「秋田竿燈まつり」と「青森ねぶた祭」もしくは「五所川原立佞武多」にご案内。にっぽん丸のお客様専用の機内席からその迫力を間近に体感してください。

エンターティナー



邦楽ユニット  
SUN 菘

若手実力派邦楽奏者のユニット「SUN 菘」によるコンサート。「東北の夏祭り」に負けない、熱気あふれるステージにご期待ください。



## 飛んでクルーズ北海道 — 5日間

2010年

Aコース 8月27日(金)～8月31日(火)

Bコース 8月31日(火)～9月4日(土)

Cコース 9月4日(土)～9月8日(水)

Dコース 9月11日(土)～9月15日(水)

小樽～利尻～網走～礼文～小樽 ※A～Dコース共通

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

135,000円～762,000円

小樽への往復に空路をご利用いただくことで、全国からご参加可能、人気の寄港地を満喫できるコースです。小樽、利尻、礼文、世界遺産・知床と、北の大地の魅力がぎゅっと凝縮。一年で最も話題を呼んだ船旅を選ぶ「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2008」でグランプリを受賞した大人気クルーズです。



オホマリ沼

## 横浜／小樽クルーズ — 3日間

2010年 8月25日(水)～8月27日(金) 横浜～小樽

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

59,000円～399,000円

三陸沖を北上し、津軽海峡を通過して小樽へと向かいます。コンパクトな日程、手頃な価格の片道クルーズながら、にっぽん丸ならではの優雅な雰囲気をお楽しみいただけます。

エンターティナー



ボカル・グループ  
THE JADE

オペラ界のトップスターによるユニット。

心に響く THE JADE のコンサートでステキな夜をお過ごしください。



小樽通商

## 秋の味覚 根室・八戸・大船渡クルーズ 6日間

2010年 9月25日(土)～9月30日(木) 横浜～根室～八戸～大船渡～横浜

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

195,000円～1,000,000円

豊かな山海の幸を味わう「食欲の秋」にふさわしいクルーズです。根室では旬のカニ料理、大船渡ではさんまやホタテ、八戸では「にっぽん丸りんご園」でのりんご狩り体験もお楽しみいただけます。

エンターティナー



ピアニスト  
西村 由紀江

ドラマ「101回目のプロポーズ」、映画「子ぎつねヘレン」のテーマ曲などを手掛けてきた西村由紀江。そのピアノの音色に魅了されるに違いありません。



りんご園イメージ

※表示の代金はコンフォートステートグループ3(1室3名利用)～グランドスイート(1室2名利用)の大人お一人様(船内食事付/消費税込)旅行代金です。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問い合わせください。 ※掲載の写真はイメージです。

商船三井客船

お問い合わせ・お申込は商船三井客船クルーズデスク

URLが変わりました

0120-791-211

http://www.nipponmaru.jp



ボンド保証会員

〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三井ビル5F

0120